

富山県総合計画審議会 第1回未来部会会議

日 時：平成 29 年 1 月 25 日（水）13:30～15:30

場 所：県民会館 8 階 バンケットホール

<出席委員>（五十音順）

金岡部会長、神川副部会長、内山委員、大西委員、大野委員、河合委員、小見委員、横嶋委員、吉田委員、和田委員

関専門委員、武内専門委員、武山専門委員、坪内専門委員、西野専門委員、藤田専門委員、マリ・クリスティーヌ専門委員、村上専門委員

1 開 会

【司会】 それでは皆さまお集まりですので、ただ今から富山県総合計画審議会の未来部会を開催いたします。

2 知事挨拶

【司会】 まず初めに、石井知事からご挨拶を申し上げます。

【石井知事】 どうも皆さん、こんにちは。本日、富山県総合計画審議会の第1回目の未来部会を開催しましたところ、委員の皆さまには、委員就任を快くお受けいただきました上でこうしてご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

ご承知のとおり、富山県では平成 24 年 4 月に県政運営の指針となります総合計画としまして、新・元気とやま創造計画を策定させていただきました。これに基づいて活力・未来・安心の三つの分野と、重要政策、人づくりの分野からの政策を進めてまいりました。

一方で、一昨年 3 月に北陸新幹線が開業しましてから 1 年と 10 カ月余たちましたけれど、観光振興の面や、企業立地の面、大型商業施設の進出、いろいろな面で明らかに新しい時代に入ってきたかなと思っております。開業 1 年ぐらいの時点で、新幹線に乗って富山にいらして宿泊されるお客さんの数は開業前の 25.4%増となりました。2 年目に入って、

普通なら少し落ちるかなと思っていたのですが、落ちてもせいぜい1年目の9割ぐらいにとどまっております。また、観光地によっては1年目より2年目の方が5~6割増えたといったところも出ておまして、まだまだ開業効果が大きいと思います。また一方で、数年来、政府に強くお願いしまして、地方創生戦略、地方の人口減少対策を含めた地方の活性化ということを中心政治の中心テーマにさせていただけたということもございます。この開業効果と政府の地方創生戦略をうまく活かして、富山県の新しい未来をつくっていきたいと思っております。

もともと今の新・元気とやま創造計画を作った際も、10年計画ですけれど、5年ぐらいたったところで見直しをすとしてきておりますので、ちょうど今の時期に新たな総合計画を策定することが適切ではないかと思っております。その際に、先ほど申し上げた地方創生については、政府から予算、補助金等を頂く関係もありまして、5年間の計画となっております。一昨年10月に作って昨年の3月に改訂したとやま未来創生戦略というのが一つあります。併せて、今日お集まりの方々にもお世話になりましたが、昨年夏に、概ね30年後を展望した富山県経済・文化長期ビジョンを作っております。こうしたものも参考にさせていただき、この10年計画を作っていきたいと思っております。

また、恐縮ですが、昨年10月の県知事選挙の際に、この活力・未来・安心・人づくりを柱にしながら、ちょうど100の施策を公約として掲げまして、県民の皆さんのご支持を頂いて、4期目に入らせていただいたという経過があります。この100の政策も踏まえた総合計画になるとありがたいと思っている次第です。

今日は、その総合計画策定の際に、活力・未来・安心の三つの部会と全体の調整、全体的な理念・ビジョンをまとめる総合部会と四つあるわけですが、そのうちの未来部会を開催させていただくということです。

その他、総合部会の下に、やはり若い人の意見を聞かなければいけないということで青年委員会を立ち上げます。それから、実際に計画を策定して進めるとなりますと市町村の意見も出してやりますから、地域ごとに地域委員会、新川地区、富山地区、県西部を作りまして、これをうまく組み合わせてと言いますか、総合調整しながら、新しい県政の基本指針を作りたいと考えています。そういった全体の構想の中で、この未来部会は今日からスタートということです。ひとつ、よろしく申し上げます。

【司会】 ありがとうございます。この未来部会につきましては、昨年12月に開催され

ました第1回総合計画審議会におきまして、審議会の運営規定に基づきまして、部会長を金岡委員さん、副部会長を神川委員さんをお願いすることで決定しております。どうぞよろしくお願ひいたします。

次に、資料1の部会別委員名簿をご覧願ひます。未来部会につきましては、この名簿のとおり、委員が13名、専門委員の方が9名という構成になっております。この方々に委嘱申し上げますけれども、本日はこのうち、委員10名、専門委員8名の方々にご出席いただいております。本来はお一人ずつご紹介申し上げるべきところですが、時間の関係もございまして、お手元の名簿をもちまして、ご紹介に代えさせていただきたいと存じます。また、専門委員の皆さまには、本日お手元に知事名の委嘱状をお配りさせていただいておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

では早速、議事に入りたいと思いますが、運営規定によりまして、部会長に議長をお願いすることになっておりますので、金岡部会長、どうぞよろしくお願ひします。

【金岡部会長】 このたび、部会長を仰せつかりました、富山県経営者協会の金岡でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

「未来」という言葉は、未だ来たらず、将来はまさに来たらんとするということで、意味合いが若干違うかもしれませんが、まだ来ておりませんので、完全に見通すことができないと思います。ただ、あらゆる面でさまざまな未来予測というものが語られております。私が所属するIT企業の未来予測を一つご紹介しますと、最近、AI、人工知能が進歩してまいりましたので、10年以内に、今、私たちが行っている仕事の半分ぐらいはAI、マシンに置き換わるのではないかという、ややショッキングな予測が出されております。このような予測を目にした際に、私たちが取る心的、心の回路というのは、恐らく二つに分かれるかと思ひます。

一つは、半分もの仕事がAIに取って代わられる。これは大変なことだ。失業問題が起きる。従って、この流れは押しとどめなければいけないと。実際にイギリスで産業革命が起きたときに、機械に仕事が奪われるということで、機械の打ち壊し運動、ラッドライト運動というのが起きました。

もう一つの見方は、もっとポジティブに、積極的にその変化を捉えていこうということです。世界で恐らく最もイノベーティブな考え方をする人たちが、アメリカのシリコンバレーにいるわけですが、恐らくシリコンバレーの経営者はこのように考えると思ひます。

どうということかと申しますと、技術の進歩によって人間が働く労働時間がどんどん減ってきた経緯があります。今は1日8時間働いているけれど、AIが進歩して1日4時間でよくなるかもしれない。さらにはもっと少ない時間を働くだけで、人間の社会生活が成り立つかもしれない。非常に良いことではないか。こういう積極的な見方をする方々もいらっしゃいます。

同じような現象を捉えても、どのような見方をするか、どのような行動をするか、全く違ってくると思います。

今回の未来部会は、恐らく未来を予測する部会ではなくて、既に未来を形作っていこうという石井知事はじめ、富山県の皆さんの強いご決意の下、立派な計画案が出来上がっております。恐らく私どもの部会のミッションと申しますのは、たくさんの経験、専門的な知見をお持ちの委員の方にお集まりいただいておりますので、この富山県の方でお作りになられた立派な原案というものに味付けをしていただく。さまざまな角度からご意見を頂いて、より良い計画を作っていくということかと考えています。

その際、先ほどあえて、未来の見方を二つ申し上げましたけれど、できますならば積極的な見方、われわれの行動、さらにはこの計画を実行することによって、未来を形作っていくことができるだろうという視点でのご発言をお願いしたいと思う次第です。

3 議 事

(1) 総合計画の見直しについて

【金岡部会長】 それでは、挨拶が長くなりましたけれど、議事に入らせていただきます。

お手元の会議次第に従いまして、まず、議事の1番目、現行の総合計画の見直しについて、事務局から関係資料のご説明をお願いします。

【事務局】 それでは、2ページ目、資料2の総合計画の見直しをご覧いただきたいと思っております。この資料は昨年12月8日に総合計画審議会でご審議いただいた資料ですが、本日からご参加の専門委員の皆さま方には、ご覧の策定趣旨について、ご確認、お目通しを頂ければと思っております。

下に記載しておりますが、新たな計画につきましては平成38年度を目標年次とし、概ね10年間程度を見通した計画として策定していこうというものです。

続きましてスケジュールです。3ページ目ですが、今年の秋ごろまで、今回を含めまし

で都合3回の部会を開催させていただきまして、年内までに審議会から答申を頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。全体スケジュールにつきましては4ページにまとめておりますので、ご確認くださいと思います。

続きまして、資料3、A3横長の資料です。新たな政策体系案ですが、先般の審議会におきまして、全体で100の新たな政策体系案を提示させていただきました。そのうち、未来部会につきましては、ご覧の下の表ですが、左側が現行計画の19の政策です。これを今回は右側の28の政策としております。特に赤の矢印で示していますが、今回、拡充した政策を中心に、ポイントを右側の点線の枠の中に記載しています。

上の囲みが四つありますが、それらを束ねる基本政策、四つの目標ということで記載させていただいております。今後は、この新しい政策体系案に基づきまして議論をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

6〜7ページ目につきましては、今の28の政策ごとの主な取り組みの方向について、記載している資料です。

続きまして8ページ、資料4です。こちらは、今年の春ごろまでに計画の骨子案を取りまとめるに当たり、9ページから四つのテーマごとに28の政策について、現状と課題、政策課題に対する論点、こういったものをまとめさせていただいている資料です。こちらの資料の参考にしていただきまして、今回の部会では、本日のご議論いただきたい論点ということで、二つほど書かせていただいておりますけれど、各政策の現状からこれでよいかどうか、また、各政策に掲げました論点について、県の取り組みがこういったことで良いかどうか、積極的にご議論いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

続きまして、資料5をご覧ください。ページでいきますと、37ページになります。これは、先般、各委員にご回答いただきましたアンケートの結果を取りまとめたものです。

内容を簡単に説明しますと、1の10年後の県民生活がどのようなことになるかということにつきましては、情報化の更なる進展、北陸新幹線等による県内経済の活性化、子どもの個性を伸ばす教育の実施というものが上位となっております。

一方で、下の方ですが、老後の生活や少子化、住み慣れた地域で自立して生活できる社会等につきまして不安に思っている方が多いという結果になっております。

続きまして、2枚めくっていただきまして、41ページをご覧ください。これは今後10年間を通して、特に重点的に推進していくことが求められる施策につきまして、未来部会の関係です。子育て支援、高齢者の活躍の場の拡大が上位に来ております。また、男女共同

参画の推進と、女性の能力の発揮、交流人口の拡大、定住・半定住の促進というものが、前回調査と比べまして、順位が大きく上がっているという結果になっております。

また、自由意見として頂いたご意見ですが、2枚めくっていただきまして44～45ページにまとめておりますので、またご確認等いただければと思います。

説明は以上です。

【金岡部会長】 ありがとうございます。

議事の2番目に意見交換とありますが、その前に、今、手短に事務局からご説明いただきました総合計画の見直しにつきまして、ご質問があれば承りたいと存じます。何かございますでしょうか。

なければ、何も質問がないのもあれですので、私は朝、資料に目を通してきましたので、非常に細かいことですが、質問させていただきます。現状資料の17ページ、A3の資料の最初に、「現状、全国学力・学習状況調査の結果は全国トップクラスである。一方、家庭での学習時間が少ないことなどが指摘されている」ということでただし書きが書いてあるわけですが、これを書かれた意味合いは、もっと家庭学習を強化してくださいということなのか、ただ淡々と事実をここに掲げられたのか。後の方に教員の多忙化等の記載もありますので、家庭教育をもう少し充実していただきたいというような意味合いで書かれたのかなと一瞬、思ったのですが、何か書かれた意味合いはございますか。

【司会】 今のご指摘のとおりでございます。やはり子どもの成長には家庭教育がまず大切、それと同時に学校教育が大切。この二つが合わさって子どもの健やかな成長が期待できるわけです。家庭での学習時間は長ければいいということではございませんが、全国で比較しますと本県の家庭での学習時間が短いものですから、それが一つの課題になっていきます。それは学習習慣をつくるという意味で大切だという意図で書かせていただいております。

(2) 意見交換

【金岡部会長】 ありがとうございます。それでは皆さま、次に議事の2、意見交換に入りたいと存じます。

進め方としましては、この未来部会のテーマは四つに分かれておりますので、そのテーマごとに皆さまのご意見を承りたいと存じます。先ほどございましたとおり、事務局から本日ご議論いただきたい論点は既に提示してございますので、これを踏まえつつ、意見を頂きたいと思います。

本来であれば挙手をしていただいでご発言いただくものですが、せっかく多くの委員の方に来ていただいでいますので、皆さまにご発言いただきたいという趣旨もございまして、私の方から各テーマに沿った方々をそれぞれご指名させていただきたいと思ひます。なお、異なるテーマでも自由にご発言いただいで結構でございます。その際には挙手をお願いいたします。

まず最初の、「結婚・出産・子育ての願ひがかなう環境づくり」の項目です。トップバッターで恐縮ですが、富山県医師会副会長、富山県教育委員会委員もお務めの、村上専門委員の方からご発言をお願いいたします。

【村上専門委員】 どうもありがとうございます。大変、良いことがたくさん書いてあつて、一つ一つ掘り下げていただくことが大事なのですが、ここにもう少し書いていただきたいと思ひたこととしましては、やはり高齢出産が増えているということが言われております。もしも、子どもを持つ人生というものを考えるのであれば、少し早い時期からそれをイメージして、それに適した年齢があるのだということ。それは学校教育の中ではあまり触れられてきていなかった、医学生ですらあまり知らないようなことがあります。やはり、仕事を一生懸命やつて、バリバリのキャリアを積んで、気が付くと高齢出産と言われる年齢に達しているという。なかなか周産期の厳しい現状に直結する問題だと思ひますので、そういったことをイメージとして膨らませていただくことが1点。

それと、富山県というのは大変、共働き率が高い。男性は大変協力的ではあるのですが、私は富山大学の学生さんから若い医師を見ておひまして、うまく二人でやつていける人たちというのは、かなり男性が積極的に育児に、自分がやるのだというような。つまり、その中には育休を取らせてもらった人もいるのです。女性が仕事に出ていく直前の1週間でも2週間でも、男性が育児全部を引き受けるというぐらひの体験をさせてあげることで、自覚が飛躍的に高まります。奥さんがいる間にちょっとお手伝いをするというのでは、全くやる気も責任も湧きません。ここは、「私は仕事に行く。あなたおひね、1週間」という体験入学みたいなことをしますと、がぜんやる気になります。お母さんはおっばいをく

れる人、パパはミルクをくれる人というふうに、きちんと子どもはその辺をわきまえて育
っていてくれるのです。それが喜びにもなりますし、自分はこれからこの家族と一緒に
生きていくのだという自覚が大変できます。そういうことは、なかなか企業の中において
は難しいことだということは分かっていますが、ここを何か行政の力添えを頂きまして、
具現化していけたらいいのではないかと考えています。

もう一つ、学校の先生は本当に忙しいと思っています。養護教諭の先生も負担がものす
ごく増えています。国の決まりである、何人に対して何人というような縛りの中では、今、
学校の現状として、それでは立ち行かないと思っています。子どもたちが健やかに育っ
ていくために、とても長い時間を過ごしている学校という中に、もう少し人とお金をかけて
いただくことがとても重要ではないかと考えております。

まだ言いたいけど、これで終わりにします。

【金岡部会長】 どうぞ、まだまだ時間がありますので、どうぞ。

【村上専門委員】 いやいや、他にご意見も伺いたいと思いますので、いったん、ここで
終わらせていただきます。

【金岡部会長】 分かりました。またよろしく願いいたします。

続きまして育児雑誌の副編集長をお務めで、このたび、この委員会に公募で手をお挙げ
いただきました内山委員、よろしく願いいたします。

【内山委員】 ただ今ご紹介いただきました、公募委員として参加させていただいており
ますが、ハッピーママという子育て情報誌の副編集長をしております。よろしく願い
いたします。

一番最初に、「結婚・出産・子育ての願いがかなう環境づくり」というテーマで伺って
おります。

私が担当しております子育て情報誌で見てもそうなのですが、富山県のママは、本当に
働くママが多くて、子育てを頑張っているママがとても多いです。そのために、子育てを
ママだけでやるというのは随分難しくなっております。私たちの子育て情報誌の方でも、
ママだけのために今まで作っていたので「ハッピーママ」と言っていたのですが、それだ

けではもうママは回らないということで、ママもパパも、地域の方々も、祖父母、じいちゃん、ばあちゃんにも子育てを頑張ってもらおうというような内容で、今は進めております。

子育てというものはママだけではとても大変でして、今ほど村上委員からも言われたとおり、パパも積極的に参加をしていただく。参加するというよりは、子育てはパパがするのは当たり前だというようなマインドチェンジをお願いできるような、そういうことが大切なのではないかと思っております。

また、今、SNSなどがたくさん氾濫しておりまして、情報が氾濫しているというようなことがあります。ママが子育てについてなど気になったことをいろいろ調べるのだけれど、その情報が合っているのかどうかということもすごく気になっています。人の子育てについて気になったり、モヤモヤしたりというママがとても多いような気がします。

それから、富山県はとても子育てのフォロー、施設などもたくさんあるかとは思いますが、周りのママを見ておきますと、例えばこの4月に育児休暇を取り終えて、もう一回会社に復帰しようというときに、保育園が空いていないということは、こういう富山県であってもあります。4月は特に、小さなお子さまを持つママにとってはとても大変で、4月から働き始めることにしていたのだけれど、やむを得ず、パパの方に少し休んでもらって、働く期間を調整しているという言葉も結構聞いております。

また、小学校1年生になりますと、今度は学童保育に預けるのがとても難しいということです。こちらの方もデータが出ていると思うのですが、これは本当に必要にしている人、プラス、諦めているママたちがいるということもあるので、このデータ、プラス、もっと困っているママがいるのではないかと思っております。

たくさんママに対して、子育てをしている家庭に対して、フォローの方はたくさん頂いているかと思うのですが、より細かなフォローの方を頂くと助かると思っております。

ありがとうございました。

【金岡部会長】 ありがとうございました。続きまして、富山県母親クラブ連合会の会長をお務めの和田委員、ご意見を頂ければと思います。

【和田委員】 和田でございます。今、「結婚・出産・子育ての願いがかなう環境づくり」の中で考えていくならば、子どもさんの出生率でございますが、確かに知事さんが、2年

ほど前に 1.9 と打ち出されたときは、私はとっさに「厳しいのではないのでしょうか」と言った覚えがあります。着々と 1.9 になってきているということで、うれしいのですが、この幅をどのようにしていくのか、今の話を網羅して、どのようにお子さんたちが出産できるのかというようなことにいかと思いますが、切れのない対策ということで、どの辺までということは、私たち委員は分かっておりますが、やはりこれは、県民の若いお母さん方にもっと知っていただきたいと思っております。

それと、企業、子宝率に基づいて、事例発表のことですが、これは大変良いことで、何年も続いていることは私も見かけておりますが、やはり男性の働き方、改革の推進ということで、私は若干、迷うこともあります。どこまで足元を見極めていって、働き方を改革できるのかなという。そういう細かいところをもう一度踏み込んでいただきたいと思えます。大変良いことですが、その良かった優良事例のことが、あまり伝わっていないということです。時々、新聞などマスコミでは発表されておりますが、やはり末端まで県民の皆さまにも伝えていくということで少しは改革できるのではないのかと思えます。中小企業はいいのですが、零細企業の方は、若干大変かなと思いつつ見ておりました。

それと、一番最後の、子どもの健やかな成長支援でございますが、県、市町村、学校、家庭、地域、そういうところが連携して取り組むということは、5 年前、私はもうこのことを心の中で思っておりましたが、なかなかうまく家庭、地域までは届かないのです。あくまでも県は市町村との連携を密にしてくださって、それが学校に伝わり、足元の一番大事な家庭、地域のところに届くように連携してもらわないと、なかなか健やかな成長は地域では見られないという現状です。

それで、5 年間見てまいりましたが、子どもの成長に関わる支援策が大変薄くなってきておまして、5 年後、10 年後は、私にはあまり未来が見えてこないです。若干ずっと負担が続いておりますので、各地域、家庭というところまで踏み込んでいただいて、やはり子育て支援をしている今、現状の既存の団体に働いて活動してもらって、少し面倒を見ていただくというようにしなかったら、これは絶対に伸びていかないことです。安易に家庭、地域と言いましても、難しいかなと思っておりますので、少し細かなところまで成長支援を考えていけばいいのではないかと考えております。以上です。

【金岡部会長】 ありがとうございます。お三方からご意見を伺いましたが、この 1 番

目の「結婚・出産・子育て」につきまして、どなたか、自由にご意見がありますでしょうか。

お時間がありましたら、また後ほど、皆さまのご意見を伺いたいと思います。それでは。

【大野委員】 よろしいですか。

【金岡部会長】 はい、どうぞ。

【大野委員】 読売新聞の大野と申します。この資料の 11 ページで育休という話があって、女性委員の方からのお話で、私は答えにくい部分もあるのですが、私どもの読売新聞社でも記者職という少し特殊な職業の中でも、最近、やはり若い人を中心に育休を取るのが割と当たり前という感じが浸透してきまして、取る人がだんだん増えてきている傾向にあります。質問ですが、この資料の中で、富山県は依然低い状況にあると言いながらも、26～27年に急に上昇しているのは、何か方策、対策を取られたのかということ。富山県は中小企業の割合が非常に多いとなると、その企業の上司の理解という中でも、両立支援制度が普及していかないと、そこの裏付けというか、支えがなかなか難しいのかなと思うのですが、そこはいかがなものかをお聞きしたいと思いました。

【金岡部会長】 ありがとうございます。

どなたか事務局の方で、この男性の育児休業取得率が急上昇したことについてお答えできる方はいらっしゃいますか。

【事務局】 労働雇用課ですが、資料の 11 ページの左のグラフのことかと思えます。女性と男性の育児休業の取得率が書いてございまして、右の男性の方は 26～27 年にかけてそれなりに上がっているということかと思えます。いろいろ分析はしておりますけれど、これまでのさまざまな施策の取り組みの一環ということも考えられるかなと思っております。もう少し詳しい理由については調査してまいりたいと考えております。

【金岡部会長】 ありがとうございます。よろしいでしょうか。恐らく数字自体が小さいですので、これが一桁上ですと 15 から 38 だとかなり大きい変化ですけど、少しの努力

で大きく変わった可能性もあるかと思えます。ありがとうございました。

それでは続きまして、次のテーマに移らせていただきたいと思えます。「真の人間力を育む学校教育の振興と家庭・地域の教育力の向上」についてご意見を承ります。

まず最初に、恐縮ですが、富山県 PTA 連合会副会長の大西委員、お願いいたします。

【大西委員】 富山県 PTA 連合会副会長の大西と申します。よろしくお願いいたします。

まず、6 番目の少人数、35 人学級の 3 年生から 4 年生の拡充については、先般、石井知事に私たち連合会の方から要望書を出させていただいたときも、まず第 1 の項目として挙げさせていただきましたが、本当に児童一人一人に対して目の行き届いた個別の対応を可能にさせていただくためにも、ぜひこの 35 人学級を 4 年生まで引き伸ばしていただく。大体の小学校が、3 年生から 4 年生に進級するに当たってのクラス替えがないということもお聞きしていますし、実現化に向けてお願いしていきたいということを重ねて申し上げます。そのためには、十分な先生方の人員の確保。先生方は非常にお忙しいと他の委員さんからもお話が出ておりましたが、かなり多忙でいらっしゃいますので、人員の確保と、先生方の資質の向上、スキルアップについてもお願いしたいと思っております。

それから、8 番目のいじめ、不登校対策についてです。私も働いておりますが、ソーシャルワーカーの仕事をしているのですが、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーの配置が、他の分野の福祉に対して薄いかなという印象を持っております。スクールカウンセラーやソーシャルワーカーの配置を拡充していただき、その手法のスキルアップ。悩んでいる子どもさんやお母さんは本当に疲れ果てている状態で、私もお母さん同士の悩みとして個人的に聞いたりする機会も非常に多くあります。また、シングルでいらっしゃるお父さんやお母さん方は本当に忙しくて、例えば相談をするときに、学校に出向いて相談をするようなことに時間を割くことが非常に難しい状況であると思えます。そして、子どもたちを取り巻く環境も、いじめ、不登校、貧困、精神疾患を持つご家族がいらっしゃるなど、問題自身がさまざま、多岐にわたっていて、本当に難しい状況にあります。これを全部、学校の先生にお任せするというのは、今でさえ、多忙で非常に忙しい先生方に、こういう家庭のことも含めて全部お願いするというのは非常に難しいので、そこはカウンセラーやソーシャルワーカーという専門職と連携することによって、また他の職種も交えることによって、困っていらっしゃる子どもさんやその保護者の方々を守るために、結果が得られる継続的な支援という体制を作っていただければと思います。

それから、家庭、地域の教育力の向上ということについて、私たちの富山県 PTA 連合会でも、親学びプログラム、県の教育委員会さんが普及しておられるプログラムについては、私たちが普及に努めている次第です。このプログラムの実践が恒例となっている、例えば氷見市さんとか、県内でも各市町村で親学びプログラムの実施が恒例化していて成功しているところがあるのですが、そういうところでは、小学校や中学校の入学説明会ですとか、入学後の保護者会とか、参加率が非常に高い集まりに合わせて行っておられるような手法を用いておられます。このような成功例をモデルケースとして、あまり盛んではない市町村、学校さんにもぜひ、どんどん広めていければという意見を持っております。

全般的に、住まう地域の力、教育の力では、子どものみならず、いろいろな高齢者や障害者も含めて地域の力を増していかなければならないと感じております。本当に子どもはかけがえのない宝物ですし、子育てに地域が期待して、一緒になって子育てを楽しむという地域になっていければいいなという思いでいます。

以上です。

【金岡部会長】 ありがとうございます。続きまして、富山県の私学振興会副理事長をお務めの河合委員の方からご意見を頂ければと思います。よろしくお願いします。

【河合委員】 私ども学校ということを考えますと、一番最初に出生率のお話でしたが、今年に生まれた子が 15 年後には高校に入るのだなという計算ができます。18 年後には大学に入るかな、これだけの人数かと。われわれにとっても、大変、出生数というものが気になるところです。資料では現在の富山県の人口は 106 万人余りであるが、2060 年には 64 万人余りになるだろうと。この減少を何とか抑えて、2060 年には 80 万 6000 人にしようという目標があります。

なかなか難しいのですが、救いは何人子どもが欲しいかという希望があるわけです。ところが、希望より少ない数字になっている。それができない理由は何だろうか。いろいろあります。今まで、ここで検討されている中でもいろいろ問題がございます。しかし、皆さんの中でも既にご覧になった方もあるかもしれませんが、岡山県で小さな自治体ですが、画期的に出生率を上げた町があります。新聞で見たのですが、平成 17 年から 26 年の 10 年間で、合計特殊出生率が 1.41 から 2.81 になった、いわば倍近くに改善した。そういう例が出ていました。これは富山県のような 100 万という単位ではなくて、小さな自治体ですか

ら、せいぜい1万人～何千人ぐらいの町だと思います。

そして、何をしたのかが書いてありました。ここは、平成の大合併のときに、合併をしないで、単独でいくという結論を出していった自治体だと書いてありました。当時は1万人いたのが、今は6000人ぐらいしかいない。そんな小さな町ですから、数字にすると、たやすいと言ったら失礼ですけど、割と改善しやすいということは分かりますが、かなり思い切ったことをやっています。例えば出産祝い金と称して、富山の例も載っていましたが、この町では、出産祝い金が第1子が10万円です。第2子は15万円、第3子は20万円、第4子が30万円、第5子以上は40万円と、かなり大奮発をしているわけです。これも出生率が改善された理由かもしれません。それから医療費も、高校卒業まで、保険治療を受けてかかった個人負担分は町で負担しましょうと。それから、保育所の保育料も軽減。これも書いてありましたが、第1子が国の基準の55%に軽減する、第2子はその半額にすると。そこまでやっているのです。第3子以降は無料。こういったかなり大盤振る舞いのようなことをやって、出生率が改善したという例がありました。

何が言いたいのかと言いますと、やはり人口というのは、全ての基本になるわけです。本来は増やしていきたいのですが、いかにして減らさないでいくか。これをやるには、どこでもやっているようなことをやっていたのでは、なかなか改善しないと思いました。それには当然、先立つものがないとできないわけです。そこは国、県、各自治体がどのように分担しているのか分かりませんが、そういった問題もあるでしょうが、私は出生率の問題については、もう少し力を入れてやっていかないと、この80万6000人という数字も、絵に描いた餅になってしまうのではないかと思います。以上です。

【金岡部会長】 ありがとうございます。続きまして、富山大学の地域連携推進機構、生涯学習部門の教授をお務めの藤田専門委員、お願いします。

【藤田専門委員】 ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。私は、生涯学習、社会教育を専門にしておりましたので、その観点からお話しさせていただきます。

「生涯をとおした多様な学び」の推進ということで、富山県は本当に長い歴史を持ちまして、教育県としてとても素晴らしい事例を維持してきております。全国に誇るものも、とてもモデル的に存在しているというのが今の現状です。ただその中で、この先、このままでいけるかと申しますと、学習機会は多く提供してまいりましたが、これから学んだこと

をどのような形で活用していくのかとなりますと、活用が既存のボランティア活動とか、既存の団体さんの活動というところでは、そろそろ学習者たちが満足していないのではないかというアンケート結果が、本学の学習機会を提供しているところの公開講座や、正規授業公開、オープン・クラスのアンケートとかにも出てきております。

活躍の機会がいっぱいあればいいのになと思うところで、多々希望が出ております。これは全般的な傾向なのですが、では、自分の力をどこで活用したいのか、また、学んだことが何に活用できるのかというところを、やはり学習機会を提供しているところ、また、活動しているところ、活躍したい方、そこの対話といいますか、やはり生の意見で対話の機会を築いて、新たな活躍の場をつくっていく。また、新たな学習機会の提供、プログラムを作っていくということがとても求められているのではないかというのが、全国的な傾向です。それを文部科学省では、そのような機会を提供するところを「生涯学習プラットフォーム」という立ち位置で、中教審の答申では表しています。

この新たな学習機会の提供、新たな活躍の場をと考えていきますと、どこがまず担っていくのかとなりますと、現状の学習機会を提供しています、例えば県民カレッジさん、大学の公開講座を提供している場所、本学であれば私のセクションですけれど、県短さんにしても、富短さんにしても、国際大学さんにしても、法科大学さんにしても、いろいろな形で学習機会を提供しているところがございます。そことの連携というのが大切になってくるのではないかと考えております。

それから、新たにということ考えていきますと、シニアさんたちのことなのですが、やはりシニアさんたちがリタイアした後、どうしてくるかとなりますと、やはり学習機会を形にしたいというところがあります。素直に今までどおり、地域活動、ボランティア活動に行くかと言いますと、今、シニアさんたちは70歳、80歳になっても就活と言いますか、就職に力を入れたいというのが全国的な傾向です。ですから、そのところにも活躍の場を開拓していくという必要があるのではないかと思います。そうなりますと、やはり、学習機会を提供しているところと、活躍の場として企業さんとの連携も大切になってくるのではないかと思います、やはり経験値と技術をどこで成果活用をしていくというところも、これから切り開いていかなければならないのかなという場所になります。

また、子育て中のママさん、パパさん、子育ての方たちの生涯学習も考えていかなければなりません。それも、今、現代社会はとても複雑ですから、今、この社会で、どういう形で子育てしていくのか。そこはやはり孤立させないで、ネットワークを築きながら、そ

この相談を請け負っていくというのも生涯学習の一環だということに入ってくるかなと思います。

また、全国的な傾向としましては、学校が抱えている課題も、地域、家庭、学校との連携も視野に入れていくということになります。特に、いじめの問題も地域の中で解決していく道筋はないだろうかということで、3年前から文部科学省主導で取り組んでいるところがあります。その部分につきましても、どこでも起こっている問題が富山県にないわけではない。富山県で何ができるのか、行政で何ができるのかということも、地域の教育力の向上と考えていきますと、やはり地域、家庭、学校、企業の中で、情報交換、情報共有をしながら、今後、人が何を学んで、どういう形で、活用していくのか。また、ニーズとシーズの課題ということも、今後に向けて、今までと同じではないということも前提としながら探っていくことが必要ではないかと考えます。その部分を行政として何ができてくるのかなというところのサポート、支援も視野に入れながら、今後見つけたいと考えます。

ふるさと学習もそうなのですが、やはり次世代に何を伝えたいのかとなったときに、活字だけではない、映像だけではない、人と人が Face to Face で語り合いながらつながっていく、引き継いでいくということが大切ではないか。そういう機会を設けていくとしますと、今、事例としてあります土曜学習、土曜授業ということも、地域、家庭、学校、企業との連携という形でも、引き継ぐということ、また、Face to Face で学び合うことの可能性というのは、あらゆる機会がありますから、それを既存のもの、また新たにつくるものをきちんと整理しながら、何の目的に向けてやっていくのかを探りながら設定していく、学習プログラムを組んでいくことが大切ではないかと考えているところです。以上です。

【金岡部会長】 ありがとうございます。ここで、富山大学の理事で、本部会の副部長を務めていただいております神川先生、この二つの分野、「結婚・出産・子育て」「学校教育、家庭・地域の教育」はご専門だと思いますので、神川委員の方から、お願いします。

【神川委員】 富山大学の神川です。専門かどうかと言われると、何とも言えません。私は、一番最初に金岡委員長がおっしゃった学力向上のところを自分では一番、研究のテーマにしているのです。そういうところも踏まえて、富山県というのは、いろいろな専門の方々のお話を伺って行って、それぞれが自分の仕事をしっかりと勤勉に真面目に遂行して

おられて、こういうところでお互いに連携を取りながら、まさしくいろいろなことがこれまで進んできているなという実感を持ちました。

二つにまたがってということなので、1番と2番で、私はいろいろなところに首を突っ込み過ぎているかもしれませんが、まず最初の「結婚・出産・子育て」ということで言うと、これまでどなたかおっしゃった切れ目のない子育てで、ママだけではなくてパパも含めて、できるだけ不安なときは、孤立しそうなときには支えていけるようにということで、いろいろな例を先ほどからも出していただきました。親学びの話もどちらか出てきておりますけれど、一生懸命、行政の方、いわゆる先ほどから出ている連携という言葉だと思います。産官学金、全てが連携しながら、仕事、職場をマネジメントされる側からも、家庭の側からもサポートしようとしている。そういうところが、やはり連携する県としては、これまでも非常に着実に素晴らしい進捗状況、進んでいるなと思っています。

ただ、問題点は、1番目のところで言うと、私は前回も誤解を招くようなことを言ったのですが、やはりまだまだ、先ほどの3.8の数字ではないですが、お父さんたちが家事や家庭のことや子育てに関われるほどの時間が少ないということと、周囲の意識、それから、先ほどマインドチェンジとおっしゃったかと思うのですが、このあたりにまだまだ問題があると思っています。新聞のネタで富山県の男性の子育て協力度が、女性側から見たら最下位だったという話をしたら、「富山県のお父さんたちは頑張っているんだ」とかなり反論されてしまったのですが、現実調査をしていくと、まだまだ意識が改革されていない部分もあります。先ほど、お手伝いではなくて、しっかりと家庭を支えたり、地域を支えたり、職場でも、家庭まで含めて従業員の生活を支えるのだという意識を全体的にもっと醸成していかなければいけないなとすごく実感しております。つまり、働き方ばかり言っていますが、働き方と休み方。変な言い方ですけど、働くだけではなくてバランスを取っていく。いわゆるワークライフバランスを取っていくためのサポートの仕方を、時間だけではなくて、意識の部分からもっと醸成していく必要があると思っています。

私がこれまで研究してきた中では、40代の共働きの女性が最も負担が大きく、子育てと家庭と仕事と。その負担の時期が過ぎたころに更年期障害がやってきて、またその後大変な思いをしていらっしゃる方がいる。そういうところをサポートしていかなければならないと思っています。

1番に関してはまだまだあるのですが、2番目に関しては、タイトルから少しあれっと。今ごろになって言うのも何なのですが、「真の人間力を育む学校教育の振興」。学校教育に

またウェートを置いていないかなど。土台は家庭ではないかということも含めて、「真の人間力を育む家庭や地域の協力」。どういう順番がいいのか分かりませんが、どうしても学校や家庭に期待してしまう部分が大きくなって、さらに学校の先生方を、先生の家庭も含めて圧迫しているようなところがあります。ですから、ここはやはり連携というものをあらためて見直していく必要があるかなど。支え合いを見直していく必要があるかなど思っています。

その他いろいろなことがあるのですが、今後は子どもたちが成長過程の中で、その後も影響してくると思うのですが、富山で育っていることの豊かさ、充実感、これだけの人にサポートされているということをあらためて実感してもらって、大学側からすると富山で定着してほしい。次のCOCのところ、地元定着率を高めたいというのがあるのですが、そういう意味では、育つ環境の中で、富山の良さをあらためて教育の中や家庭の中で伝えていかなければいけない。

もう一つだけ。新たに外から来てくれた大学生に富山の良さをしっかりと分かっていたくためには、働く場所をしっかりとサポートしていかなければいけないとしたときに、先日も大学生に新しいインターンシップのあり方ということでチャレンジしています。多くの企業の方に協力をしていただいているのですが、若者の働くことに対するモチベーションを高めるための、企業さんたちのさらなる協力、連携があって、若者がもっと富山で働きたい、家庭を持ちたい、そして、ここで年をとってもいいかなと思えるような環境を連携してつくっていく必要があると思います。

1、2だけではなく、3、4につながっている部分がどうしても出てきますが、以上です。

【金岡部会長】 ありがとうございます。1番目と2番目のテーマについては、もう既にさまざまなご意見を頂きましたけれど、このあたりでいったん区切りとさせていただきます。これまでの各委員の皆さんの意見の受けて、石井知事の方から一言コメントを頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

【石井知事】 大変貴重なご意見、ありがとうございます。全般に、一つは、出生率向上のためにも、また、お子さんの教育のためにも、女性が育児をする、男性は仕事という役割分担ではなくて、男性も育児を手伝うという意識にこだわらず、相当の役割を果たす、そういうふうにするべきだというご意見が多かったように思います。この5年、10年で、富

山県内の県民の皆さんの意識も相当変わってきたなと思っております。ちなみに一昨年間、私もイクボス宣言というのをさせていただきましたが、北陸銀行の頭取さんが「では自分も」と言ってなさるような時代になってきましたので、時間はかかるかもしれませんが、だいぶ変わってきているかなと思います。またこの方はそれなりに進めていただければと思います。

それから、子育て支援をするためには思い切った政策が必要ではないかと。河合さんからそういうお話がありました。大野さんの質問にも絡みますけれど、もともと男性の育児休業率は、私が知事になったときは0.4%ぐらいでした。これはあまりにも極端だなということで、前回、新・元気とやま創造計画を作る際に、それから、かがやけとやまっ子みらいプランというのもちょうどそのころに作っていましたので、目標を、できそうもないことを言うてはいけないので、せめて5%まで上げることにしました。この5%の目標は皆さまから見ると物足りないかもしれませんが、確か平成28年に達成しようという目標だったのですが、27年にやっと3.8%までに上がったということです。全国でも男性の育児休業取得数は結構低いのですが、富山県は残念ながら全国平均より若干低めなので、これは産業構造が、割合、製造業が盛んな富山県ですから、多少はいろいろな産業構造の違うところと比べるといろいろ不利ということもあるかもしれませんが、そういうことで努力してきた証かなと。

その際には、育児休業を取るには、会社の意向や協力、理解が必要ですから、そういった男性の育児、女性はもちろんですが、それを気持ちよく認めてくれる会社については、それだけではありませんが、例えば女性の再就職、あるいは育児休業を短時間勤務を一定の場合認めるとか、いろいろなことで、子育て支援に積極的な企業を表彰させていただく。あるいは、業種によっては例えば県の建設事業の入札の際に点数を加点して、子育て支援に協力している企業は入札でも有利になるとか、そういったこともいろいろやって、今の数字になっているわけです。

それから、スクールカウンセラーをもっと配置してはどうかということですが、学校の先生方の多忙化というのは確かに言われているわけです。スクールカウンセラーについては富山県はかなり早い段階から、平成19年ですからもう10年近く前になりますが、全校にスクールカウンセラーを配置しております。小学校についても、昨年あたりから、相当拡大して今、20校ですか。いずれはもっと増やしていきたいと思っております。

それから、スクールソーシャルワーカー。お子さんが抱えている課題が、学校の人間関

係というより、少し踏み込んでみると家庭のいろいろな事情に影響しているということが割合分かるケースがあります。そちらの方はスクールカウンセラーの方が対応しにくいので、スクールソーシャルワーカーという方を採用させていただいています。これも今、富山県は1校当たりの配置時間が小中高校ならして42時間余りになっていますから、全国では多分トップクラスだと思います。ただ、現場のニーズはまだまだあるかもしれません。もちろん、財政状態もあり、いろいろなニーズがありますから、全てにお応えするのは無理かもしれませんが、人づくり、この辺の教育は大事ですから、また充実に努めていきたいと思えます。

河合さんがおっしゃった、出生率向上のために思い切った制度が必要だという点ですが、富山県は例えば不妊治療費でいうと、随分早い段階から、全国1番、2番というトップクラスの手厚い制度になっております。それから、これはできて7~8年になりますが、お子さんができたら子育て応援券というのを、わずかな金額ですが、出しております。3番目のお子さんができても3万円だったかな、ということもやっています。これはこれで意外と、親御さんはもちろんですが、いろいろな関係方面の方に、この応援券はなかなかいいねと言っていたいております。それから一昨年、だいたい議論しまして、第3番目のお子さんの保育料は無料にすると。これは全国で、都道府県単位でやったものとしては多分1番目か2番目です。一緒につられてやった県が数県あると思えますので。ですから、割合、手厚くやっている方です。出生率向上はおっしゃるとおり、容易なことではありませぬので、今後も努力していきたいと思えます。

ちなみに、県がアンケート調査をしますと、「お子さんは何人欲しいですか」と聞くと、「3人欲しい」という人が6割を超えます。でも「実際に何人持てそうですか」と聞くと、5割ぐらいの人が「やっぱり2人だな」と言います。「そのギャップの理由は何ですか」と言うと、77%ぐらいの人が、3人まで持つと「経済的な負担が重過ぎる」と。4割ぐらいの人は「仕事と子育ての両立が難しい」と。77%の人がそう言っていると分かったので、それを踏まえて、随分議論しましたが、第3番目のお子さんは保育料を無料にしよう決めました。4割の人が仕事と子育ての両立が難しいと言っている点は、国全体としては100人以上の従業員の企業については、仕事と子育てが両立できるように、事業主行動計画というのを作って教育するようにしているのですが、富山県の場合は、全国で唯一、まず51人以上の企業についてそれを義務付けて、さらに今年の4月から30人以上の企業について義務付けるようになっています。ただ、条例だけでは駄目ですから、中小企業に実効性の

ある計画を作り、それぞれの企業の事情に合った形で、仕事と子育てが両立しやすいような仕組みを作ってもらうようにしています。これをここまでというのは、全国でも富山県だけです。そのようにやっているのですが、まだまだということだと思います。

その他、ふるさと教育にもっと力を入れるべきだという点もおっしゃるとおりです。富山県ではお子さん用に『ふるさととやまの人物ものがたり』というのを4~5年前に作り、小学校、中学校の方に学んでいただいて、高校生向けには『ふるさと富山』という副読本を作ってやっております。また、高志の国文学館を5年ほど前に造りましたのも、もともと、ふるさと教育をしっかりとやろうという考えでできているわけです。あそこで、ふるさとゆかりの文学だけではなく、ふるさとが生んだ偉人というか賢人というか、そういう方を取り上げています。また、今度、教育委員会にもお願いして、理学系の勉強も併せて、田中耕一先生と、梶田先生に監修してもらい、『ふるさととやまの自然・科学ものがたり』という本を出すことにしております。それなりに努力はしているのですが、今ほどいろいろなお話がありました。富山大学でもCOCプラスというのを始められたようですし、県立大学でも1年早くCOCをやっています。こういった大学などと連携しながら、ふるさと教育についてさらに力を入れていきたいと思えます。

少し漏れがあるかもしれませんが、長くなりますので、以上です。

【金岡部会長】 石井知事、わざわざありがとうございました。

続きまして、文化、スポーツの振興と多彩な県民活動の推進についてご意見を伺いたいと思います。なお、スポーツにつきましては、今回の計画からこちらの未来部会のミッションになったかと思えます。

ちょうど一昨日、私は東京におりまして、東京の経済同友会の新年会、講演会に出ておりました。そこで1時間半にわたって、日本オリンピック委員会の竹田会長の講演と質疑を聞く機会がありました。そこで私も初めて勉強したのですが、2020年の東京オリンピックのビジョンの骨子は、「スポーツには世界と未来を変える力がある」と。1964年、日本は変わった。2020年世界を変えようというのが次のオリンピックのビジョンの骨子だそうです。今回から未来部会のテーマの一つになったわけですが、東京オリンピックもこのように未来をつくって変えていこうという形になっておりますので、これもまた積極的なご意見を承りたいと思えます。

初めに、異文化コミュニケーターとしてご活躍のマリ・クリスティーヌ専門委員、お願

いします。

【クリスティーヌ専門委員】 東京オリンピックのエンブレムの委員もやらせていただいて、今レガシーを探しているのですが、なかなか前に進まないということが現状です。

今、言われた、世界と未来を変える力を持つということは、すごく大切なことです。今回、未来部会ということで、スポーツもこちらに入ってきたとおっしゃいましたが、資料を見させていただいた中で、もっと足した方がいいのではないかと思いました。子どもに向けて未来を期待し過ぎているような気がするのです。私たちは20年後は高齢者です。私たちにとっても明るい未来でないと、年を取る意味がないと思います。むしろ、私たちにとってどんなものが待ち受けてくれているのかということもここに希望として組み込んでいただけるといいのではないかと思います。人生は一括ですから、生まれたときから死ぬまでの間で常に、藤田先生がおっしゃったように、生涯学習というのが非常に重要です。ただ、途中で具合が悪くなって、認知症になったり、がんになったり、いろいろな病気をもって、社会に参加できなくなったときに、頼れるものは何なのかということが大きいと思います。今日いらっしゃる皆さま方の中には、おうちで奥さまが高齢のお父さまやお母さまの面倒を見られている方もいます。そういう方々は外に出掛けていけなくて、おうちで親の面倒を見ている。私は富山県に住んでいる方々の中で、東京に奥さまを置いて、自分の父親や母親の面倒を見に単身赴任で富山に来られている方を2人知っていますが、大変な思いをされているわけです。結局、奥さんが付いてこないとなってしまったときに、地域に頼るしかないわけです。ご兄弟がいらっしゃる方だと、兄弟に申し訳なく思いながら、面倒を見てもらっていたりする。未来というものをきちんと全て網羅できるような形での県の厚いセーフティネットを作って差し上げないと、富山県に留まるよりは他の地域に行った方がいいのではないかと。または、若いときは富山もいいけど、だんだん年を取ったら違うところに行こうとか。未来は、私たちにとってみれば富山県というのは年を取ったときに困るから、若いうちから移りましょうという気になるといけませんので、やはりもう少しトータルで見た方がいいと思うのです。

教育に関しては、先ほど座長もおっしゃいましたけど、グローバル社会の中での技術の進歩で、ITはすごく大事です。AIと言われていますが、例えば、AIの拠点シリコンバレーだとするのであれば、アメリカのシリコンバレーの科学者たちは、今、ITを子どもたちに使わせない教育をしているのです。スティーブ・ジョブズはiPadを子どもに持たせま

せんでした。それはなぜかという、自分が作った IT ではあるけれど、自分はアナログ社会の中で育ってきたからこそこういうものが作れたのであって、最初から便利なものを持つと、子どもは頭が働かなくなる。あえて、インターネットやコンピュータを子どもに使わせないで、昔からの読み書き算数、そして物事を考える教育をシリコンバレーの富裕層はしているわけです。そういう学校もできています。ですから、基本的な教育をきちんとつくっていくことによって、その子どもたちの想像力でまたこういうものをもっと生かせるようになる。最近 IoT、Internet of Things という言葉が動いていますが、IoT というのは人と人をどうつなげていくとか、物と物をどうつなげていって新たなものを発想するかということで、結局 IT の世界の中でもものを見ているわけです。IoT と言うとどうやって使うんだろうと思われるかもしれないのですが、人と人を連携させたり、物と物を連携させてという、アナログでやってきたことが、IT のプラットフォームでできているのですが、やはりもともとが非常に重要です。私は、富山県民をもっとそういうアナログなところをしっかりとやっていただくことが大事です。

あと、高齢者が本当に安心して生活できるような地域にしていきたいと思います。育児とお年寄りの面倒を見るということは同じことだと思うのです。女性は同じ時間を取られてしまっているわけです。ですので、先ほどから男の子に教育をとか、マインドチェンジと言っていますが、やはり家庭科できちんと男の子たちが掃除・洗濯・料理ができるように。とにかく小学生から当たり前だと思っていただくことが重要です。私は、ジェンダーというのは男性と女性は違うということがすごく大事なことだと思います。ただし、生活する一つの術としての基本はきちんとやらなくてはいけないと思います。そのところはぜひきちんと、男の子にも女の子がやっていることと同じことをさせることが大事だと思います。

最後に一つ、これは送られてきたのですが、富山県の逆さ地図です。私はこれは非常に重要だと思いますが、新しい地図を作ってほしいのです。今回、新幹線ができたことによって、ものすごく時間軸が変わってきたと思います。なので、新幹線で東京に行ったり、新幹線で富山県がどこにつながるか。時間が縮まったところは新たな経済圏になるので、そういうところの関わり方というものをもう一回作り直していただいて、アジア、中国、韓国、ロシアとのつながりの近さというのをもっと強調していただきたいと思います。

それと、これとは関係ないと思うのですが、物流関係で先日びっくりしたのですが、富山県から香港や中国に荷物を出すときに、ものすごく時間がかかるらしいのです。名古屋

港に出してから、アジアに荷物を出す方が、富山県から船便で出すより速いと聞きました。それはなぜかという、航路が一つしかなくて、秋田に行ったり、福井に行ったり、いろいろなところをぐるぐる回ってから中国に行くので、富山県でできたものをすぐに出そうとすると、結局他のところと連携しなくてはならないので、むしろ富山県から直に出掛けたいけるような航路を毎日出していただけると、恐らく地域のものづくりをされている方々で海外と関わっている方にとっては、富山県がもっと良くなる一つの方法だと思います。そこのところも見直していただけたらどうかと思いました。

【金岡部会長】 ありがとうございます。続きまして、富山県の体育協会専務理事をお務めの横嶋委員、お願いいたします。

【横嶋委員】 冒頭に、スポーツが部会に入ったことをご紹介いただき、ありがとうございました。前のお話の会がどうのこうのというわけではないですが、もともとスポーツは未来につながるものだと思っておりましたので、大変うれしく思っております。

そこで、未来部会に入ったということで、いきなりですが、これまでいろいろなデータを基にこういう施策を立てておられますが、思い切って過去のデータを一回壊して、新しい課題で進めてもらいたいことをまず初めにお話ししたいと思います、26ページの1番にスポーツの実施率が書いてあります。これまで、富山マラソンやウォークラリーとか、そういうイベントへの県民の参加の様子を見ても、昨今のスポーツ実施率は少し高まってきていると私は思っていたのですが、この表を見ると下がっています。この状況は国でも同じでして、国も47%から40%とダウンしている状況でした。そこで、全国の資料を収集している関係者にお聞きしましたところ、東京オリンピックの開催が決まったことから、スポーツへの関心は非常に高まってはいるのですが、国民の考え方として、これまでの健康志向の運動はスポーツとして考えなくなってきたと。それがこういう調査で出てきているのではないかというお答えを頂きました。そういう意味で、先ほど話したとおり、スポーツ実施率の調査項目を今一度検討して、何か新しいバージョンでやられたらどうかというのがまず1点です。

二つ目は、右側の方に、「幼児期からの体力向上」という言葉が出てきております。幼児の体力向上というのは一体何を指すのか、私には分からないのです。スポーツテストや体力テストをして、その数値から何か目標数が出るのかなと、少し疑問を感じます。幼児期

は、体を動かすことが好きな子を育てるとというのが、一番の大きな目標ではないか。体を動かすことによって屋内外のスペースで走り回る。もしくは、遊具を使って遊ぶ。遊ぶことによって仲間と一緒に楽しむことを覚える。これが幼児期に大切なのであって、幼児期からの体力向上というのはいかなるものかということが2つ目です。

三つ目は、次のページに競技力向上の対策が書いてあります。少し自慢げな話になって申し訳ありませんが、富山県の競技力向上対策は、一応、全国から大変注目されております。小県でありながら一生懸命、こういった部分をしているということ。本当ならば、ここに成績が伴えば、胸を張って全国にアピールするわけですが、成績が伴わないことから、少し下を向いているわけです。ただ、そこに書いてありますように、昨年度、オリンピックで金メダルを取ったとか、昨年の国体では21位になったとか、成果が少しずつ表れてきております。ですから、ここに書いてある施策を今後とも継続・拡充していくのが対策です。毎日の積み重ねが、世界に羽ばたく選手を育成されると私は思っております。そういう中で、この文章で、一つの目標として定めてもいいのですが、10年間総合計画の中に、例えば右側の「東京オリンピック出場選手育成のため」とか「オリンピックに」とか、「オリンピックに向け・・・的を絞った」というのはちょっといかなるものかと。あくまでも通過点として考えてもらいたいです。東京オリンピックに出場する選手を期待しながら、今後さらに何とかという、そういうような内容の文章にしていきたいというのが3点目です。

最後に、前の26ページに、「県民の運動・スポーツ習慣の定着に向け・・・環境づくり」という話があります。④に県営スポーツ施設の機能の充実や、学校体育館開放の話が出ています。皆さんもご存じのとおり、本県の県営スポーツ施設は大変充実しています。特に、県営施設のアリーナ、床面積は対人口比、全国で2位という広さを持っております。広さを持っているというだけではなくて、例えば私どもが管理しております県の総合体育センターは、平日の夕方、6～9時の利用状況は83%です。土曜日曜は94%です。学校開放は95%も使われているという状況です。施設を管理する者としては、まだ利用頻度を上げるいろいろな取り組みをしなければならないと思いますが、ここへ新しい方々を取り込むのは非常に難しいことではないかと思っております。そういう意味で、参考資料の、先月の審議会の中で出ています件、52ページの一番最後に書いてありますが、子ども、大人、高齢者まで楽しめるような全天候型の文化施設、新しい施設の建設をぜひ要望したいと思います。以上です。

【金岡部会長】 ありがとうございます。続きまして文化の面、富山県の芸術文化協会の会長を務める吉田委員、お願いします。

【吉田委員】 芸文協の吉田です。よろしく申し上げます。昔は、「衣食足りて礼節を知る」と言ったのですが、時代も人間も少しずつ変わってきて、それだけではどうも礼節が知れないようなご時世なのかもしれません。そこに「文化」の一言が当てはまるかどうか分かりませんが、およそ3点について、なるべく手短かに話したいと思います。

一つは、富山は世界に誇る、とやま世界こども舞台芸術祭が4年に1回あるものがちょうど10回目を迎えて、去年の7月、8月におよそ2600人の参加者を得て、盛大に行われました。これは子どもだけではなくて、支援協議会というのがあるお母さんがバックにいらっしゃいます。その数は400～500で、ボランティアの数でも桁違いの容量を持っています。非常に華やかに行われて、県民会館でもいろいろな催し物があり、いろいろな出会いの場がつくられます。県民会館がそのことに初めて使われました。それまでは呉羽の芸術創造センターに行っていました。いろいろないきさつでこの建物になり、非常に効果があったと思っています。

ただし、これは毎回言われていることですが、参加している子どもさんのお母さんは良いが、一般の子どもさんの参加がまだまだ足りないというご指摘を受け、反省会でもそういう意見が強く出ていました。これはやはり、まさにそのとおりです。スコット(SCOT)と比較するのはどうかと思いますが、スコットも、とやま世界こども舞台芸術祭も、むしろ世界の方がよく知られているのかなという感じがします。そこはやはり、何とか変えていかなければいけないと思います。例えば、学校との連携、あるいは学校の特定の先生方との連携が必要で、そういったことを強めていくべきだろうと思います。これは少し痛いところではありますが、そのような反省を持っております。それは行政の力にばかり頼るのはあまりよくないことではありますが、ある程度は仕方がないかなと思っています。

2番目は、富山県民美術館が8月26日にいよいよ開館の運びとなっております。これは本当に新美術館、全く新しくできたような印象を持っております。三十数年前に今のものができたときに、その美術館とスコットが富山に来たことが、富山の芸術文化を非常にドラスティックに変えた、多くの芸文協の先達などがおっしゃっていますが、それにも匹敵する大きな事件だと思っています。この新美術館もやはり、お母さん、子どもの取り組

みが大いにされています。僕もレストランの業者さんを決める委員会の端におりまして、ベーグルのお店に決まったときに、お母さんと子どもがベーグルを食べてピクニックをしている図が頭の中に浮かんで、非常にバラ色に感じました。お父さんはどうかというと、お父さんはお母さんとお子さんが来れば必ず来るので、あまり考えなくてもよろしいかなと。それと同時に、地元のアーティストの方々の力をお借りして、アートとデザインの方で、また新しい時代が30年前のように始まることを期待しています。

3番目、最後に高志の国文学館の話です。今ちょうど富山ゆかりの作家が愛した自分の身の回りの品のような展覧会をやっており、非常に興味深く見ました。僕も友の会の副会長をやっておりますが、やはり、かなり多くの収蔵品を高志の国文学館は持っておりますので、その利用を強めることが必要かと思えます。同時に、やはり地元の書き手の方々がいらっしゃるわけです。具体的に言うと同人誌会というものですが、そういった方々の力を取り込んで、参加していただくことによって、そういった芸術文化の運動をその人たちにどんどんコミットしてもらい、同時に他の人にも広めてもらう。そういった展開を文言に表したらよいのではないかと思います。先ほど、マリ・クリスティーヌさんがスティーブ・ジョブズの話がされましたが、スティーブ・ジョブズが、未来を知りたいならば、未来を今、発明すればいいということで、それでiPadを作ったのではないかと思います、そういう意味では美術館も、文学館も発明されたものであると思っています。

【金岡部会長】 ありがとうございます。続きまして、富山短期大学の福祉学科長を務めておられ、ボランティア関係にご造詣の深い、関専門委員、お願いいたします。

【関専門委員】 手短かに、一つ、二つだけ発言させていただきます。

28ページなどで申しますと、ボランティアの方で、児童・生徒との関わりの話が出ておりますが、一つ残念に思っているのは、教育委員会で行っておられた高校生のためのボランティア講座が既になくなって点です。ボランティア活動で、そこに来ていた高校生と話をしても、「ボランティアって、ただやればいいでしょ。やれば喜んでもらえるでしょ」というような意識が強かった。だけど、ボランティアをやる上で知っておくべきこと、知っておいた方が良い成果につながるということがこんなにもあることに気付いたというような感想を聞かせてもらったことがあります。ボランティアについて、実は体験することが、今まで学校の中で中心にあったかと思ひまして、実際には、ボランティアを理解する

ための授業というか、その部分があまり十分ではありませんでした。ボランティア活動をした後の自分の振り返りというところと併せて、ボランティアを人間力の育成などに活用していくというところも、今後一つ必要な視点なのかなと感じています。

今、南砺市でユニークな取り組みをやっておられます。去年の2月に中日新聞に出たとありますが、地域振興のために市外の人たちの参画を促すボランティアポイント制度の導入。ああいったものも一つ、これからの検討材料となっていくのかなと思っています。

また、災害について申しますと、私自身、学校生活を振り返って思うのですが、避難訓練はするけれども、児童、生徒、学生もそうなのですが、自分たちの身の安全を保った後、被災者をどうするかという部分が足りていないのではないのかと思います。自分たちが助かったらそこで終わっているのが今の避難訓練かなと。そこで、若い世代で元気な学生や生徒ができることを避難訓練の中に盛り込んでいくのが、これからの中で必要なことになるのではないかと感じております。今日はその1点だけ発言させていただきます。

【金岡部会長】 ありがとうございます。委員会もだいぶ時間を過ぎまして、皆さん、口が滑らかになってこられまして、まだご発言いただいていない委員の方もいらっしゃいますので、誠に恐縮ですが、今後手短にご発言いただければと思います。

続きまして、おやべスポーツクラブサブクラブマネージャー、そして東京オリンピック・パラリンピックの富山戦略会議委員をお務めの坪内専門委員、お願いいたします。

【坪内専門委員】 スポーツに親しむ環境づくりの推進ということで、週1回運動している人が、週2回、3回にするのは非常に簡単です。運動していない人が運動に興味を持ってもらい、運動を始めるきっかけをつくるのが難しいです。やはり、運動・スポーツと言うと、きつい、競争、勝ち負けのイメージが付いているのですが、スポーツを楽しむということを、そして、スポーツを楽しむことができる環境をつくっていくことが、これからすごく重要になっていくと思います。

学校における児童、生徒の体力、運動能力も低下しているのが現状ですが、それはやはり運動する機会が減っている点が原因だと思います。その中で、学校における体育の授業がすごく重要になってくると思います。今後は学校、地域のスポーツクラブ、そして家庭がうまく連携しながら、児童・生徒の体力、運動能力を向上させていく必要があると考えています。

世界で活躍する選手の育成という点においては、富山県が行っている未来のアスリートで育った子どもたちが全国大会、そして国際大会で活躍しており、大変成果が出ています。この未来のアスリート事業を今後もさらに内容を充実させて、未来のアスリート、そしてジュニアアスリート育成サポート、トップアスリートと、一貫指導に力を入れて続けていくことが大切だと思います。

そして、間近に迫っている東京オリンピック。この東京オリンピックに富山県出身の選手がたくさん出てくれることが一番うれしいのですが、それとともに、日本で開催されるオリンピックということで、子どもたちがすごくオリンピックに興味を持つと思いますし、世界を目指す子どもたちが増えてくると思います。その子どもたちを育て、活かしていくことが大切だと考えています。そして、このオリンピックに出場した選手や世界で活躍した選手、この選手の育成に力が入りがちですが、選手として第一線を退いたときに、その後、富山県でコーチや、世界で活躍できる選手を育成できる立場として活躍できる環境を整えてあげることで、より高いレベルでの指導ができ、選手育成にもつながっていくと考えています。以上です。

【金岡部会長】 ありがとうございます。それではこのテーマの最後ですが、富山第一銀行の調査役で、煌めく女性リーダー塾アドバイザーをお務めの西野専門委員、お願いします。

【西野専門委員】 富山第一銀行の西野と申します。よろしくお願ひいたします。

企業がどこまで富山県の未来に関わっていけるかということで、私ができることは男女共同参画の社会づくりという観点から、今日は言わせていただければと思っています。

国の女性の活躍推進法が決められてから、行動計画を各企業で出しておられると思います。当行でもいろいろ考えた末、幾つか行動計画が出ています。大体の企業さんが、女性の管理職を倍にしようとか、女性の職員の割合を3割から4割にしようとか、男性の育児休暇を、当行は100%にしようとか大きな目標を立てていますが、何パーセントにしようとか、動労時間の削減をしようとか、こういうことをいろいろ行動計画として立てている企業が多いと思います。先ほど、男性の育児休暇が少しずつですが上がっているのは、各企業のちょっとした努力がそういう数字に表れてきているのかなと思いました。

私は煌めく女性リーダー塾のアドバイザーをさせていただいているのですが、その成果

発表が、先週、行われました。そのリーダー塾は県の主催する塾ですが、県の企業が今後リーダーになる方を推薦、または自分で応募していらした方が、7月から翌年2月まで塾生としていろいろ勉強します。どうやったら私たちは管理職になれるのだろうか、リーダーになっていけるのだろうかということをいろいろ勉強したり、自分たちで話し合います。その成果発表を先週聞いてまいりました。いろいろ苦労していらっしゃるようで、後ろを向いたことが多いかなと思っていましたが、そうではなくて、リーダーになるには、前向きの考えで、男性からいろいろ言われたことにめげるのではなくて、これから私たちがリーダーになって女性を引っ張るのだという決意が大きく語られました。富山県の女性は皆さん、私は50代なのですが、40代半ばから50代にかけての女性が少ないと思っています。多分、どこの企業もその年代の女性が少ないと思っています。ただ、20～30代にかけての女性は各企業でも結構いらっしゃるので、その女性にいかにして上を目指してもらうかが、今後の各企業の課題だと思っています。そこで、自分たちは時間外はなしですぐ帰ろうというのではなくて、それを減らすためにはどういうふうはこの企業で関わっていかねばならないのか。そういうことを前向きに考えておりました。自分はすぐ帰るのではなくて、「今日は私が時間外をします。その代わりに、夫によく話し合っ、夫に時間外をしてもらおう。だから今日は私が時間外ができます」とか、そういう発言もありました。そして、最後に、10年後にはこの皆さんが富山を支える管理職、リーダーになっていくことを目指してくださいと、皆さんに言ってきました。

皆さん、本当に元気な女性が多かったので、30ページに書いてあるように女性の管理職が少ない現状なのですが、精神論などを鍛えながら、企業の方の努力もあると思いますが、増えていくのではないかと考えております。

【金岡部会長】 ありがとうございます。それでは、最後のテーマ「ふるさとの魅力を活かした地域づくりについて」という点を伺います。最初に、富山県の建築士会の幹事をお務めの小見委員、お願いいたします。

【小見委員】 小見と申します。よろしく申し上げます。お時間がないようですので、手短にお話しさせていただきます。

まずは地域の個性を活かした景観づくりというところで、本当に新幹線の開業によって富山県の観光地が取り上げられて、テレビで放送される機会が非常に多くなったなあと感

じております。つい先日も NHK の「鶴瓶の家族に乾杯」でも岩瀬の街並み、そして八尾の街並みが映し出されて、富山県民として本当にうれしく、これを日本中の人が見ているのだなと思ったら本当にうれしくて、食い入るようにして見ておりました。岩瀬も八尾も景観に関しては、いろいろなことに配慮がなされています。それは街並みの建築協定であったり、無電柱化、そして屋外広告であったりします。それぞれの場所において、各市町村での景観づくりというものを推し進めてほしいと思いますし、県としてもサポートも重要かと思っております。

また、34 ページの下の方に課題として、「県民の景観づくりに対する関心を高めるためには、どのような取り組みが必要か」とあります。非常に難しいと思うのですが、まずやはり、県民の皆さんに、美しいものを、美しいと感じるものを見せてあげること。そして、美しいものの中に現状を置いてみて、現状が恥ずかしいものでないかどうかを感じてもらうことが必要ではないかと思っております。また、美しい景観にするには、現状を変えるには、どのような手法があるのか、何に気を付ければよいのかなど、関心を持ってもらう機会をつくることも必要かと思っております。

あと、屋外広告物に関してですが、婦中町の郊外の大きなショッピングセンターなのですが。今まで屋上に大きな広告等が上がっておりましたが、これが外装の手直しとともに小さなものに変えられました。このように大きなところから景観をよくしようという気持ちで変えていくということは非常に大切なことかと思っております。

それと、これは景観に関したことではないのですが、教育というか、「真の人間力を育む学校教育」の面で一つお話しさせていただきたいのです。富山県では、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」という授業をやっておられると思います。これは富山県独自のものなのか、日本全国的にやっていることなのか分からないのですが、すごく素晴らしいことではないかと思っております。中学2年生が1週間、学校の外で職場体験や福祉・ボランティアの活動に参加することによって、その中で社会性を高めて、自分の将来の生き方を考える。それは非常に大切に、貴重な時間だと思っております。活動の中から得られる人と人とのコミュニケーション、人に接するときの、簡単ですけど挨拶の仕方。それと、人と協力することの重要性、人に対しての優しさ、思いやり。そして、自分に対しては責任感、充実感、達成感を感じることができる、非常に貴重な体験だと思っております。ぜひこの授業を継続していただいて、県民の方々も温かな目で、この中学生の14歳の挑戦を見てほしいと思っております。以上です。

【金岡部会長】 ありがとうございます。続きまして、お待たせしました。富山大学芸術文化学部長をお務めで、富山県の景観審議会の委員も務められている武山専門委員、お願いいたします。

【武山専門委員】 資料の方で、論点、目標、政策等がよく整理されておられ、これに対してはよくまとめられていると感じております。

気になるのは、この掲げられた目標が実際に実施されるのか、実施体制、運用について、現時点でどのようなことが考えられるのかというところをぜひ盛り込んでいただきたいと思います。ここでは「目標」と書かれていますが、どちらかということこれは目的的なものです。もっと具体的な達成目標を挙げてもらい、こういうことをやったらこんな結果が得られることを期待してやりますということやっていかないと、結局、メニューは並べたけど実施できないということになりはしないかと、危惧しております。

2つ目としまして、芸術文化学部ですので。23 ページに少し、美術館と子どもの教育があります。美術館も本当に楽しみではありますけれども、駅から少し離れているということもありまして、実は芸術文化学部の方でもう 10 年ぐらい、環水公園でアートイベントをさせていただいております。美術館ともそういったことをやることもよって連携していくことが期待されるわけですが、残念ながら芸術文化学部の方に美術館に関する情報はなかなか入ってきておりません。もう少し協力体制をつくって、支えていただけたらと思います。

それから、子どもの教育につきましても、高岡ではものづくりデザイン科というのをしておりますが、これがもう 10 年ぐらいたって、かなりの成果を上げております。先ほど「14 歳の挑戦」もありましたけれど、同じように、子どもたちに早い段階でアートに触れる。要するに全県的に小中学校の段階からアートというようなワークショップなり授業なり、そういったものを盛り込んでいくことによって、将来的な構想が描けるのかなと思います。

3 点目ですが、冒頭に部会長の方から今後の未来についてお話がありました。物質消費というところから、時間消費という言葉が出ていました。既に「どう時間を使うのですか」というところで、情報処理、要するにいろいろな情報を楽しんだり、出したりというところで、いろいろな方々の生きがいにつながっているような部分ができきております。ど

んな情報かという観点で言うと、質の高い情報、魅力的な情報、どう関わっていけるかということが、自分たちの、少しお金は少なくなるかもしれないけど、満足する生活につながってくるかと思うのです。

それで私は、調査アンケートを見ましてがくぜんとしました。38～39 ページの調査アンケートのところですが、「富山固有の文化に容易にふれ、参加できること」を挙げている方がほとんど最下位で、5.6%です。それから、右のページの「美しい街並みや景観の形成」が 0%です。ええーと思います。要するに、今後の質の高い情報というのは、こういった景観であったり文化から育まれるものであって、文化力がこれからの勝負所だと思うのです。どうしてもまだ県民の方とそこに開きがあると言いますか、ギャップがあるように思うのです。例えば、新幹線で交通拠点を作るといっても、やはりそういう固有の文化があるからお越しくださるわけです。そういったことと景観、文化がつながってますよということをもっと実感できるような取り組みをぜひ推進いただけたらと思います。以上です。

【金岡部会長】 ありがとうございます。もう残り時間が非常に少なくなってまいりましたが、読売新聞社北陸支社長の 大野委員、そして武内プレス工業の社長を務める武内専門委員からは、全体を通してでも結構でございますので、先ほど大野委員からご質問いただきましたが、一言ずつご発言いただければと思います。

【大野委員】 時間も押していますので、一つだけです。大変手前みその話で恐縮ですが、学力向上の中で、先般いろいろな調査の中でも、今は読解力が全般的に足りないということで、今後の学習指導要綱の中でも、新聞や本など活字を使った教育の推奨が提言されていると思います。実際に今、全国学力テストの際に文科省がいろいろな調査をしていて、富山県が非常に高いレベルの成績を残しているのですが、一般的な話として申し上げますと、例えば小学生で応用力を問う国語 B で、新聞を毎日読むと答えた児童の正答率が 73%に対して、全く読まない子どもが 62%と、かなり差が付いています。やはり、今はネット時代、SNS とかそういう時代になり、長い文章を読んで理解し、分析して人に説明するような能力をこれからの子どもさんたちには身に付けていてもらいたいという思いが強くあります。私どももそういう活動を先ほどと併せて進めていこうと思っているのですが、そういう観点も盛り込んでいただけると非常にありがたいと思っております。簡単ですけども。

【金岡部会長】 ありがとうございます。急がせてしまって申し訳ありません。それでは最後に、武内専門委員の方からお願いします。

【武内専門委員】 経営者協会の活動の中で、婚活イベントをここ3~4年やらせていただいた経験があります。合計特殊出生率が1点幾つという数字が一番問題と言われているわけですが、実際は結婚された方は平均するともっと高い数値で、結婚されていない方がゼロということです。そのゼロの人にいかに結婚していただくかということが非常に大切なのかなと思って、取り組ませていただいているわけです。

その中で、以前に別の場で知事さんにも申し上げたことがあるのですが、うちの会社あたりでも、恐らく金岡さんの会社でもそうだと思うのですが、結婚されても出産されても企業を辞められる方というのは今、本当に少なくなっています。逆に、独身の男性ばかり会社の中にごろごろいるという。そういう危機感もあってそういうことをやっているのです。富山県さんの方も、法人会さんと組んで、9ページにあります、富山マリッジサポートセンターというものを補助いただいて、実際にたくさんのカップル、成婚者という実績を上げておられるということです。このあたりの予算額を増やせばいいのかどうか分かりませんが、他のいわゆる箱物と言われるようなものにかかるお金に比べると、やはり少ないのかなというように気がしております。

県社協会で婚活イベントをさせていただいたときの経験を話させていただくと、最初は男性も女性も5000円ずつで集まっていただきました。男性はすぐいっぱいになるけど、女性はなかなか来ていただけない。それで、男性を6000円にして、女性を3000円にしたら、一遍に男性が来なくなるということもありました。逆に、昨年末のイベントは、企画があまり良くなかったのか、定員を大幅に割るという、少ない人数の集まりになったのですが、逆に人数が少ないと親密度が増すのか、今まで20ぐらいずつ集まってもらってもなかなかカップルができなかったのが、一桁同士で集まると3組のカップルができました。男女の仲というのはなかなか難しいものだと思っております。いろいろなことをやって初めて結果に結び付くのかなと思っております。取り留めのない話で誠に申し訳ありません。以上です。

【金岡部会長】 トライ・アンド・エラーの大切さを教えていただきました。

それでは最後になりますけれど、石井知事の方から、恐縮ですが、コメントと閉会のご

挨拶をお願いできればと思います。

【石井知事】 今日には本当に貴重なご意見をありがとうございました。一つ一つについてのコメントは差し控えますけれど、一つだけ、伏木富山港から中国へ行くのに時間がかかるといのはそのとおりなのですが、結局、荷物の量なのです。ある程度まとまると船が寄ってくれる。どうしても太平洋側の方が圧倒的に量が多いので。かなりインセンティブは付けているのですが、苦戦しています。

参考に申し上げますと、ロシアとの関係ではいろいろな交渉をして、今、伏木富山港が日本で一番便利な港になっていまして、取り扱い貨物量もロシア向けはトップになっています。

それから、全天候型の文化スポーツ施設を造ってはどうかというご提案は、かねてからそういう意見が出ているのですが、今後の課題として、例えば経済界の方などにお聞きしますと、大賛成という方がいらっしゃる一方、後の維持管理費などを考えた場合、いろいろな政策の中で優先順位をどうつけるかということだなという感想を出される方も少なくありません。これもよく議論していかなければならないと思っております。

その他、いろいろ貴重なご意見を頂きました。大変ごもっともなご意見が多かったと思います。婚活、結婚支援について、県もいろいろやっておりますが、今、トライ・アンド・エラーといったいろいろな積み重ねが大事だという話もありましたので、こうした点もしっかりやっていきたいと思っております。

また、女性の活躍も、われわれ男性もしっかり協力しなければいけません。煌めく女性リーダー塾に集っている女性の皆さんはそうだと思いますが、いろいろ課題があっても、そこで苦勞して輝いていらっしゃる女性がいると、それがいわばロールモデルになって、若い女性たちの目標になります。そういうことが積み重なって、本当の意味の男女共同参画社会ができていくのではないかと思います。そのようになるように、しっかり支えていきたいなと思っている次第です。

今日は本当に貴重なご意見をありがとうございました。

【金岡部会長】 石井知事、ありがとうございました。最後、駆け足になりまして恐縮でしたが、委員の皆さま、大変この未来部会の活動に対して、大変な熱意をお持ちであることをひしひしと感じさせていただきました。この後も部会は続きますので、引き続きのご協力をお願いいたします。

それでは、ここで部会を閉じさせていただいて、事務局の方にお返しいたします。どうもありがとうございました。

4 閉 会

【事務局】 本日は、貴重なご意見を頂きまして、本当にありがとうございました。時間の関係もあり、意見を十分に言い尽くせなかった方もいらっしゃるかと思います。お手元の方にご意見等を記入する用紙を配布しております。本日の議論を踏まえた意見などがございましたら、後日、事務局の方へ郵送、FAX 等でご意見等をお寄せいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、次回の日程ですが、4 月の下旬を予定しております。また日程等が決まり次第、別途ご案内させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日は長時間にわたり、本当にありがとうございました。